

## “ みんなで守ろう広島県の医療 ” 緊急アピール

今、健康で安心できる県民生活の基盤を成す医療が、医師の不足という極めて深刻な事態に直面しています。

県内各地に必要な医師が確保できないことから、診療体制を縮小せざるを得なくなった医療機関が相次ぎ、また、3市6町では、お産ができる医療施設が無くなるなど、地域の医療提供体制に大きな影響が生じ始めています。

このほど発表された平成18年の医師数に関する全国調査においても、近年では、わずかながらも増加していた広島県の医師数が減少に転じ、特に、実際に医療に従事する人口10万人当たりの医師数についても、広島県は減少しているという極めて深刻な状況が明らかとなりました。

このような県内医師数が減少に至った背景には、新たな臨床研修制度の導入を含めた医療制度の見直しによる影響や、医師を取り巻く就労環境の変化、医療を受ける側のニーズや価値観の変化など、社会的・経済的な様々な要素が輻輳(ふくそう)的に絡んでおり、現段階では残念ながら、この状況が劇的に改善される見通しは厳しいと言わざるを得ません。

こうした危機的な事態に対し、今後、関係者は、次のような対策に全力で取り組むとともに、現在の医師の不足が制度に起因する部分も多いことから、国に対しても、診療報酬や医療提供体制について、今後の社会保障制度のあり方を検討する中で、抜本的な対策を講じられるよう強く要望して参ります。

県は、関係機関の協力を得ながら、広域的あるいは短期的・長期的といったあらゆる視点からの医師確保対策や、限られた医療資源を活用した、従来の地域や施設の枠組を越える新たな医療提供体制づくりを進めるとともに、市町における取組を強力に支援します。

医療提供者は、相互に連携・協力しながら、医師不足による診療体制への影響を最小限にとどめるよう地域における医療に最善を尽くします。

広島大学は、県内唯一の医師養成機関として、地域医療を理解し広島県の医療に最善を尽くす人材の育成に取り組みます。

市町は、地域の力を結集し、必要な地域医療が継続して提供されるような医療環境の整備や、地域社会の理解と協力を得るための体制づくりに取り組みます。

こうした取組は、医療に関して得られる情報が十分でないことによる県民の不安や、現実の医療の限界と対峙(たいじ)しながらも最善を尽くす医療提供者の努力を、それぞれの立場で理解し、共に考え、支え合わなければ実を結びません。

広島県の医療を守るために、県民の皆様には、こうした状況について御理解をいただくとともに、関係者の取組を御支援いただくようお願いいたします。

平成20年 2月 1日

広島県知事

藤田 雄山

広島県医師会会長

碓井 静照

広島大学学長

浅原 利正

広島県市長会会長(三次市長)

吉岡 広小路

広島県町村会会長(安芸太田町長)

佐々木 清蔵